

市教組代議員

「変形労働時間制反対」を 全国に向け発言

世論作りと交渉等て反対をすすめる決意

全日本組合
日職大会
定期大会

2月8・9日に開催された「全日本教職員組合」の定期大会で、市教組の代議員が「変形労働時間制反対」の取り組みを発言し、全国に先駆け試行した市の実態と市教組の取り組みが注目されました。(以下発言全文)

小の英語教育にいち早く飛びついたさいたま市は、グローバルスタディーと称し数年前から英語教育を異常なまでに押し進めています。英語専科の教員の配置やテキストさえ準備のないまま教育現場に丸投げするという施策に、各小学校では大きな負担を強いられてきました。今回も変形労働時間制の導入へ向けて、昨年7月に1ヶ月単位の試行が実施され、多くの教職員からは「またか!」と、深いため息がもれるばかりでした。

市教組では試行実施以前からその中止や校名の公表等を求めましたが、試行直前までそれは明らかにされず、実施後のアンケート結果もなかなか開示されませんでした。先人たちが命がけで勝ち取ってきた8時間労働

制を破壊する変形労働に大義はありません。市教組は、労使間の協定もなまま不当に労働時間を延長する変形労働時間制の問題点を周知させるべく、緊急アンケートを実施しました。アンケートの回答は凄まじく、直ちに全市で200を超える回答が寄せられました。その結果は・・・

①変形労働時間制導入で長時間労働は解消するかの質問に、思わない89%、わからない8%で、思うは僅か2%でした。

②変形労働時間制に対しては、反対79%、わからない15%で、賛成意見は5%だけでした。

主な意見を紹介します。「長時間勤務で過労死や精神疾患が増えると思います。1日8時間以内でないと健康で働けないです。」「内容を減らした



「変形労働時間制より『割り振り変更』をしつかりしてほしい。」という意見もありました。

変形労働時間制で事前に設定された時間を長期休業中に振り替えるより

も、後16週の期間内にはみ出た分の時間を正確に柔軟に振り替えることができる『割り振り変更』の方が、数段優れた制度と言えます。市教組ではこのアンケート結果を情

①「試行結果について、全てのモデル校で長期休業期間中に100%振り替えることができた。モデル校の多くで昨年の同時期に比べ勤務時間外の在長時間の減少が見られた。」と成果を強調し、あたかも変形労働時間制によって時間外労働が短縮され、振り替えるすべからずであったかのよう

いぜい数時間程度の振り替えなら取得は容易ですし、もともと勤務時間を延長している訳ですから時間外勤務が減少するのは当たり前のことです。

②試行実施のモデル校のアンケートについては「一番多かったものは1年単位の変形労働時間制の導入を希望するでした。」と述べ、現場は導入に前向きとの見解を示しました。しかしその実態はモデル校で記述回答した教職員が少なく、20数人の記述回答が多いとされたこと、「わからない」

③1ヶ月の試行で今後の導入を決めてよいのかの質問に対しては、「教員の働き方改革は、喫緊の課題、1丁目1番地と

女性部 渡辺恵津子さん招き算数学習会



2月1日、市教組女性部は大東大准教授の渡辺恵津子さんを講師に「算数学習会」を開きました。14名の参加で大好評でした。



本来、勤務時間を延長する場合には割増の残業代を支払う必要があるのに、そのルールを壊す変形労働時間制を導入させてはいけません。見せかけ上時間外勤務は減少するが、業務量の削減はなく、長時間過密労働は全く変わらず、労働者を無視した制度です。導入させないとりくみとして

①職場や地域で対話を広げ、世論づくりを進めること(情宣活動を充実させること)

②市教委との懇談や要請・交渉を進めること

③各職場で管理職との協議・交渉を進めること

④市議会などで条例をつくらないように働きかけ